

医療のまちづくり検討委員会からの提言

【問合せ】保健課 ☎773-6811

9月29日(火)に第6回医療のまちづくり検討委員会が開催され、これまで検討を重ね作成された提言が、亀井委員長から市長に手渡されました。

今後は提言の内容について、庁内に実務的な多職種による特別チームを設置して、実効性のある検討を進めていきます。



以下、医療のまちづくり検討委員会から提供された提言概要版(原文のまま)

基本的な考え方

- これまでの医師や職員の懸命な努力にもかかわらず、病院事業会計は、システム的な常勤医師確保やコストカットの困難さなどから、一般会計からの多額の繰入金に慢性的に依存してきているが、市の厳しい財政状況においてはもはや限界に達しているものと思われる。
- 国では令和3年度以降の更なる公立病院改革プランの策定を要請していることから、市の医療体制の構築については、これまでの経緯と実情を十分に考慮した上で、国の政策や財政措置の方向性も踏まえたものにする必要がある。
- よって「医師の確保」「病院経営の改善」を目指すとともに、持続可能な地域包括ケア体制の構築と、市の特徴を活かしたまちづくりを行い、これらを相互に関連させる「医療のまちづくり」についての提言を行うものである。

【医療のまちづくりのイメージ】

将来にわたり持続可能な市立病院群を中心とした地域包括ケア体制の構築

新たな交通体系
自助・互助・共助・公助の体制

南魚沼市特有の地区組織
ボランティア活動
伝統ある文化
温泉などの観光

静かだが、着実に温かみのある、南魚沼らしいまちづくり

- ▶ 南魚沼市だけではなく魚沼圏域全体で考える
- ▶ 地域医療構想調整会議での理解を求める

医師確保について【提言】

- 「寄附講座」の開設＝「南魚沼地域医療学講座（自治医科大学医学部総合医学1）」
 - 特命教授1名、特命助教1名の2名。診療は南魚沼市民病院、研究は自治医科大学
⇒自治医科大学との関係が強化。構造的な医師確保
- 全国的に人気があって競争力のある研修基幹施設とのタイアップ
 - 若手医師の常勤拡大
- 南魚沼市民病院が地域医療展開の研修拠点
 - 専門分野でなくても在宅医療など地域の課題へ関心を持って取り組む医師の育成
- 自治医科大学卒業後義務内派遣医師の派遣先要望
 - 県立病院のダウンサイジング化に伴い、県に南魚沼への派遣モデル化を要望
- 総合（内科）医の確保
 - 常勤医の増。非常勤医師（107名）の削減。政策的に必要な診療科の検討
- 医師の働きやすい環境構築
 - 特定看護師の養成、医療クラークの活用、IoT化